

平成18年度第2回学術講演会（講演抄録）

## 夢を追いかけて

### Chasing the Dream

講師 奥 寺 康 彦

(横浜FC代表取締役社長)

私は中学校1年生の時にサッカーを始めた。それは友達からの誘いで、何気なく始めたものだった。それまでは自分に自信がなかったが、サッカーの試合で点を取って試合に勝ったり、運動会で1等になったりして周囲が私を評価してくれ、次第に自信をもつことができるようになった。スピードと左足のキックが私の最大の強みだった。他の人に負けないものを持っていることはとても大事だ。私は、全体の練習の後、毎日残ってシュート練習をした。うまくなるためには自分で目標を持つ、自分がこうと決めたらやる、そしてやる時は本気で、気持ちを入れなければならない。

また、私は自分で進路を決めたことがない。周囲を信頼して、周囲の勧めで進路を選んだ。もちろんそこには、良い出会いがあったからである。高校卒業後はよりレベルの高い環境を望み、古河電工を紹介してもらい就職した。当時の古河には現日本サッカー協会の川淵三郎キャプテンがおり、川淵さんに私のスピードと左足のキックを認めてもらった。これは、私の強運がもたらした結果であるといえるが、運は自分から引き寄せるものであり、自分がどれだけやっているか、やる姿勢もっているかが重要なのだ。評価は周りがするのである。

社会人になって、19歳で日本代表に選ばれた。何度かの海外遠征の際にW杯で得点王になった選手を見て、世界との距離を痛感した。日本はオリンピックメキシコ大会で3位に入ったことがある。だが、それはオリンピックがアマチュアの大会だったからだ。何といてもW杯が最高の大会であり、プロが揃った世界の国々にはほとんど勝てなかった。

一度、怪我でサッカーを辞める覚悟をした時期があった。1年間、棒に振り、もうだめだと思った。しかし、また良い出会いがあり、良い医者を紹介してもらった。初心忘れるべからずと言われるが、いつまでも立ち向かっていく気持ちが必要なのだ。そして怪我が完治し、再び立ち向かう気持ちが高まった時、2ヶ月間、ブラジルにサッカー留学させてもらった。幸運にも、1軍の練習に参加できたが、全てが天と地の差だった。単純な足の速さでは負けないが、試合では判断の速さの差ですぐに追いつかれてしまう。しかし、やっているうちに自分が感化され、2ヵ月後には何とか自分のプレーが出来るまでになった。帰国すると日本の選手は全く相手にならなかった。うまくなるためには自分以上のレベルの環境でやるべきである。なぜなら自分で考えてプレーするからである。しかし、それは常に強い相手と試合しなければそう長続きはしない。今は日本の選手も変わっ

てきている。世界の国々との対戦を通じて、世界を知るようになったからだ。

その後、ブラジルに行かせてもらったことが転機となって、日本代表に復帰し、そのことによって、今度はヨーロッパに行くチャンスを得た。チャンスをもにするのは自分次第であり、他人の手助けはない。自分自身で自分を磨いてきたからこそ、私はチャンスをつかんできた。ヨーロッパでは日本代表のメンバーとして1FCケルンのプロチームの練習に参加し、そこで認めてもらいチャンスを得た。様々な不安もあったが、クラブの監督の熱心な勧誘によりプロ契約を決めた。ヨーロッパの選手は自分に自信を持っており、自分の非を認めない。言い訳をたくさん言い、自分を正当化するため、皆にもどんどん要求する。そんな環境で、チームワークとは仲間を知ること、皆に自分を見せること、そしてお互いを知り、認め合うことであると学んだ。監督は、もっと自分を出せ、遠慮するな、闘争心を出せと言う。2対1の場面で他の選手にパスを出す必要はなく、おいしいものは自分で持っていくべきだと言うのである。日本人は、失敗を恐れ、勇気がでないが、ドイツ人は失敗を気にしない。

1FCケルンで充実した3年間を過ごしたが、その後監督が変わり、試合に出られなかった。この時が一番精神的にきつかった。結局、2部リーグのチームに移籍し、ポジションが変わったが、これまでの経験を十二分に生かすことができた。これが転機となり1部のチームに移籍し、残りの5年間、思う存分サッカーを楽しんだ。その後、帰国して2年間プロ選手としてプレーして引退した。

5年後、川淵さんがJリーグを立ち上げた。Jリーグが日本のサッカーを成長させたのである。98年、日本チームは自力でW杯の切符をつかみ、その後の2002年の日韓共催W杯は本当に感慨深いものになった。ようやく日本のサッカーが世界に認められたのだから。しかし、2006年のW杯で負けた今の日本には足りないものが多い。特に、「サッカー」を知ることが大切だ。海外の選手は技術がなくてもサッカーを知っており、海外で日本人選手が活躍できないのはそれを知らないからだ。オシム新監督はそれを教えてくれるだろう。それと、闘争心である。大切なのは心、ハートの熱さであり、それが今の日本の選手には必要である。

平成18年7月13日 於 本学1号館111番教室

